

農学研究院が北方生物圏フィールド科学センター と連携してスマート農業見学会を実施

～札幌市立緑丘小学校の児童 160 名が参加～

【概要】

スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する、新たな農業のことです。北海道大学大学院農学研究院ビークルロボティクス研究室（野口 伸教授）では、トラクタや田植機など農機をロボット化する研究を進めており、本邦のスマート農業の推進に尽力しています。

今回、ビークルロボティクス研究室に対して、札幌市立緑丘小学校より、スマート農業を見学したいとお申し出がありました。そこで、11月9日（水）、本学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場にてスマート農業見学会を実施しました。

【趣旨】

札幌市立緑丘小学校5年社会科では、未来の食料生産について考える「これからの食料生産とわたしたち」の学習内容を進めています。学習を進めるうちに、児童の間でスマート農業への関心が高まり、本学大学院農学研究院ビークルロボティクス研究室に照会があり、全国でも例を見ない大規模な見学会を企画しました。

札幌市立緑丘小学校5年生の総勢160名が参加し、農学研究院が北方生物圏フィールド科学センターと連携して生物生産研究農場において、スマート農業技術を実際に見て、体感できる見学プログラムを準備し、未来の食料生産を皆で考える学習を支援しました。

北海道大学は令和4年度にスマート農業教育拠点（農林水産省事業）に採択され、スマート農業の社会実装に向けた教育プログラム（p2参照）の開発と実施を行っています。本見学会は、スマート農業教育拠点と連携して企画実施しました。

1クラスごとに4グループに分かれ、プログラムを各グループがローテーションで取り組みました。参加した児童からは「スマート農業技術、すごい！！無人で農作業ができるんだ！」といった感嘆の声が多く上がり、スマート農業に対する関心の高さが窺えました。

北海道大学大学院農学研究院では、本学北方生物圏フィールド科学センターの協力を得て、次代を担う子どもたちに人類の生存基盤である食料の生産を担う農業の重要性を理解してもらうために、今後も可能な限り小中学生を対象としたスマート農業見学会を受け付けていく予定です。





当日の様子

当日のプログラム

プログラムー1	
1	ロボットトラクタ
2	ロボット収穫機
プログラムー2	
3	複数ロボットの遠隔監視
4	ロボットトラクタの遠隔操縦
プログラムー3	
5	人についていく電動ロボット
6	腕をもって作業する電動ロボット
プログラムー4	
7	カボチャ収穫ロボット
8	ドローン
プログラムー5	
9	北海道大学の研究農場の紹介（庁舎屋上）

お問い合わせ先

北海道大学大学院農学研究院 技術専門職員 和田友則（わだともりのり）

T E L / F A X 011-706-2557

メール tomo@bpe.agr.hokudai.ac.jp

U R L 北海道大学大学院農学研究院ビークルロボティクス研究室

<http://vebots.bpe.agr.hokudai.ac.jp/>

北海道大学スマート農業教育拠点

<https://smart012.wixsite.com/website>

配信元

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610

F A X 011-706-2092

メール jp-press@general.hokudai.ac.jp